

この 1 枚



河童橋から見た穂高岳（上高地にて）

山行報告

★四阿屋山(3月11日)

参加者 会員(健常者 4 名)

今回の山は、節分草と福寿草で有名な四阿屋山。至る所に「小鹿野町」と書かれている。「オガノさん、有名だな！」とつい頭に浮かんでしまう。

まずは、三峰口駅から予約していたタクシーで節分草自生地に向かう。今日は、少しどんよりした曇り空だ。でも、雲が薄いところもある。午後からの晴れ間に期待しよう。

節分草自生地は、一面に節分草の花が咲き、

白い絨毯のようだ。派手な花ではないが、作りが繊細で、とても好きな花の一つ。アズマイチゲは咲いていないか聞いたら、入口につぼみが



セツブンソウ

一つあっただけ。まだ2週間ほど早いのだろう。かなり奥で、ザゼンソウも見つけた。多くの写真を撮り、園地から出る。道路脇では、甘酒を無料で振る舞っていた。おいしくいただいて、出発する。

今回は、ルートをどうしようか考えていたが、参加人数が少なく、障害を持つ人がいないので、上級者向けと言われるつつじ新道を登ってみることとする。30mのロープも持ってきた。

舗装道路を少し戻り、つつじ新道を登り始める。最初から急登となる。花粉がピークとなっている杉林を登る。私はマスクを付けたまま登る。マスクの内側は、吐いた息でびしょびしょ。濡れていた方が花粉が入ってこないで、好都合なはず。息苦しさは感じない。

尾根に上がって小休止。ここから少し行くと、トラバースして山居に行く道との分岐となる。核心部の岩場は、ここからすぐそこに見える。ソウンスリングが2本しかなかったので、女性二人にセットする。Iさんは、ロープなしで登ってもらう。



鎖場を登る(Iさん撮影)

まずは、トップで綱干が登る。上に行くほど、足場が細くなり、鎖が付いていなかったら3級程度の岩場なのではないかと思われた。ロープで確保して、女性二人が登ってくる。最後は、Iさんだ。やはり最上部に来て少し苦労しているようだ。後ろから来たパーティーのリーダーが、3点支持で登るようにアドバイスしてくれている。Iさんは、岩登りトレーニングの大切

さを感じたようだ。

この岩場の上にも鎖場が連続する。核心の岩場に比べたら、ずっと簡単な岩稜だが、落ちたら助からない。慎重に登っていく。続いて痩せ尾根や岩場の下りもあり、さらに鎖場の登りが続く。今日は、リーダー養成山行でした。



尾根上も岩の痩せ尾根が続く

長く続いた鎖場も終わり、ようやく一般コースの山居から山頂に至るコースと合流する。ここから山頂までにも鎖場がある。が、ここは簡単に上り下りできる。

山頂からは、よく見えるはずの両神山は雲の中。それでもその右手に、今年計画した二子山のとがった二つのピークが見えていた。山頂は狭いので、山頂標識で集合写真を撮って、すぐに下山にかかる。昼食は、山居で福寿草を見ながら撮ることとする。



四阿屋山山頂に

つつじ新道への道から分かれ、山居への道に入るが、ここも鎖場が連続する急坂だ。階段もできているが、滑らないように注意が必要。転落したら、かなり下まで落ちてしまう。

ようやく神社に到着し、山居目指して下る。

左手は福寿草の自生地のため、ロープを張って保護している。枯れ草の中から、福寿草がきれいに花を開いている。今日、一番きれいな福寿草だった。山居は、ロウバイや紅梅が咲くととても楽しいところ。福寿草もたくさん咲いている。ここで昼食タイムとする。



以前、ここには、秩父紅というオレンジ色の福寿草が咲いていたが、今日は全く見られない。2007年に来たときより福寿草自体が少ない感じ。今年は寒くて開花が遅れているのかも知れない。

山居から舗装道路を歩いて薬師堂方面への駐車場に向かう。駐車場から山道を下る。ここも階段で結構な急坂がある。歩きやすい道もあり、そんなところはのんびりできる。予定よりもかなり早く、薬師の湯に到着。ここで1時間弱の時間を使って入浴する。

★美の山(4月8日)

参加者 会員(障害者4名、健常者12名)

任意団体となって最初の山行は、奥武蔵の美の山(簗山)だ。ここは、西暦708年に和銅が採掘され、朝廷に奉納されたところだ。日本最古の流通貨幣「和同開珎」も和銅から作られたらしい。和銅黒谷駅のホームに降り立つと、早速和同開珎のモニュメントが迎えてくれる。



バス停に戻るとザックがたくさん並んでいる。失敗したかなと思ったら、みなさんは秩父駅行きに並んでいるらしい。我々は、それより早い三峰口駅行きのバスに乗る。このバスは、小さなバスで、乗客は非常に少ない。バスに乗ると、すぐに眠りについてしまった。今日は、変化に富んだ山になりましたが、みんなでがんばり、無事に終えることができました。NPO法人として最後の登山となりましたが、ここまで大きな事故なく来られたことに、ただただ感謝です。
記：網干

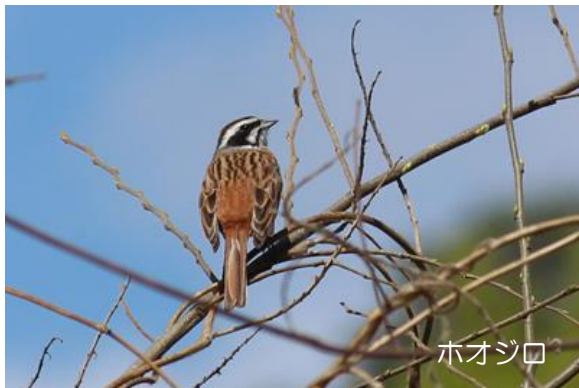
コースタイム

節分草自生地(10:05)…尾根上(10:55-11:05)…四阿屋山(12:05-12:15)…山居(12:50-13:30)…薬師の湯(13:55)

その裏手奥には両神山もよく見えている。今日はすばらしい天気の中で、山歩きができそうだ。



山道を登り、道路に出ると、麓の春らしい風景と、その奥に連なる山々が見えるようになる。色とりどりの芽吹きの木々が迎えてくれる。足下には、たんぽぽやオオイヌノフグリが一面に咲く場所もある。



まずは、和銅遺跡に寄り道してみることとする。大きな和同開珎のモニュメントがあり、そこで集合写真を撮る。

ホオジロもうさえずり始めていた。

里を抜け、山道へと入っていく。今日は比較的気温が低いと予報していたが、歩けばやはり暑くなる。上着を脱いで登っていく。足下には、タチツボスミレが咲き、イカリソウも咲いていた。



登っていくと、目の前に多くの桜が咲いているところに出た。もう美の山の山頂は近いようだ。足下には、タチツボスミレだけでなく、アカネスミレやエイザンスミレ、ヒトリシズカ、フデリンドウ、ジュウニヒトエ、ミミガタテンナンショウなどが咲き、少し登るとニオイタチツボスミレも見つけた。香水のようなほのかな

よい香りがする。まさに春の草花の天国だ。

人が大勢見えるようになると、そこが山頂だった。すぐ近くまで車で来られるので、山登りでない人の方が圧倒的に多い。

最も高い展望台に上がると、両神山、武甲山、大霧山などが一望だ。さらに甲武信ヶ岳等の奥秩父主脈も見えている。雲取山も見えているが目立つ山頂ではない。



山頂で昼食タイムとする。久しぶりに参加した Y さんは、今も3合おにぎりを頬張っている。これだけ食べれば大きくなるだろう。

山頂一帯は桜の山だ。8000本の桜が植えられているらしい。花の咲く時期にずれがあるためすべてが満開とはならないが、周囲の山々を桜の花が引き立たせてくれているようだ。

山頂で1時間以上ゆっくりしてから下山にかかる。まずは舗装された道を下っていく。桜の木の下で、コスプレの女の子3人組が、いろんな踊りを披露し、男性に写真を撮ってもらっている。



登りでは見つからなかったアケボノスミレ

も咲いていた。下りも危険なところはないが、少しジグザクが切っただけ、急な斜面もあった。しかし、問題なく順調に下っていく。

春爛漫の一日、木々の花や草花を楽しみながら歩くことのできた1日でした。親鼻駅にほぼ予定の時間につき、秩父鉄道に乗って、乗り換えなしで池袋駅に向かった。新年度、初めての

山行、お疲れ様でした。

記：網干

コースタイム

和銅黒谷駅(10:25)…和銅遺跡(10:40-10:45)…美の山(12:20-13:25)…親鼻駅(15:05)

★笹子雁ヶ腹摺山(4月15日)

参加者 会員(障害者1名、健常者3名)

前日の天気予報では、上野原地区は日曜日の午前中までは小雨が降る予報だった。しかし、予報する会社によって、9時以降は曇りのところもある。一番悪天の予報をする気象庁は午後からの降水確率は10%。風が強い予報なので、心配もあるが実施することとする。

しかし、当日、武蔵野線が30分遅れとなり、参加予定だったSさんが参加を諦めるハプニングが発生。他の4人は問題なく笹子駅に集合。予報よりも早く回復したのか、すでに青空が広がり、太陽の光が暑いくらいだ。

Iさんがネットで調べて、笹子駅から登山口まで、ちょうどよい時間のバスがあることが分かる。舗装道路を歩きたくないので、みんながバスで移動することに賛成する。



ミツバツツジ

新中橋バス停でバスを降り、すぐに登山にかかる。杉林の中に急坂が続いている。一度、尾根上に出て傾斜が緩んだが、すぐにまた急坂が

始まる。

登るにつれて登山道脇にはミツバツツジの花が見られるようになる。最初はポツポツ見られる程度だったが、次第に群落となって見られるところも出てきた。天気はいつのまにか曇り空に変わってしまっていたが、次々に現れるミツバツツジに感動しながら登っていく。



芽吹き of 尾根を登る

足下にはあまり花が見られなかったが、わずかにエイザンスミレとアケボノスミレの花が見られた。また、マメザクラと思われるが、小さな花を付けた桜も見られるようになってきた。

最後の急坂をがんばると山頂に到着する。残念ながら霧に包まれて展望は得られなかった。ここは、秀麗富岳十二景の山なので、晴れたら白い富士山が見えるはず。山頂標識には、プレゼントとしてQRコードが印刷されている。Iさんのスマホで読み取り、ネットにつながると、富士山の写真がゲットされた。こんな粋な計らいをしてくれたのは、地元の自治体の方だろうか？

山頂で昼食後は、笹子峠方面に下る。急な坂が多いので、慎重に下る。少し下ったところで、山頂で集合写真を撮っていなかったことに気がついた。しかし、登り返す気にはならなかった。みんなの写っている写真で代用することとする。



笹子峠への尾根も、ミツバツツジの群落が次々に現れる。この山は、ミツバツツジの山と行ってもよいくらいではないだろうか？とても楽しませてくれる。



尾根をトラバースするコースを下ったが、ここは何力所か外傾して滑りやすいところがあった。やはり尾根の道の方が安全だったようだ。

送電線の鉄塔を過ぎ、尾根道に合流すると、今度は非常に滑りやすい土の急坂に鎖がセットされたところに出る。ここは、鎖を使って下る。4本ほど鎖やロープを使って下ると、そこが笹子峠だった。本来は、ここから甲斐大和駅に下る予定だったが、電車賃を安くすることと、笹子駅側に下った方が、見所も多いようなので、笹子駅側に下ることにする。



まずは、車道に出たところにある笹子隧道が見所。昭和11年から13年にかけて工事をして作ったらしい。歴史を感じさせる古風な作りがとても趣があって一見の価値がある。

ここから車道を下るが、ここもミツバツツジが多く楽しめる。車道から矢立の杉への登山道を下る。木に大蛇のように絡みついた蔦やミツバツツジを楽しみながら下っていく。

矢立の杉は、樹齢千年と歌詞に書かれているが、昔の武者が出陣の時にこの杉に矢を立てて武運を祈ったらしい。根元の部分も内部は空洞になっていた。



ここからさらに山道を下り、新田のバス停を目指す。バスは1時間以上待たないと来ないため、車道を歩いて笹子駅まで行くことにする。この頃にはすっかり晴れ上がり、青空が広がっていた。
記：網干

コースタイム

新中橋バス停(9:10)…笹子雁ヶ腹摺山(11:15-11:55)…笹子峠(12:50)…新中橋バ

ス停(14:25)…笹子駅(15:05)

★大人と子どものふれあい登山（御前山）（4月22日）

参加者 会員(子ども1名、健常者6名)

大人と子どものふれあい登山だが、今回の子どもの参加は、M君だけになってしまった。みんな中学生になり、部活動等が忙しくなったのだろう。

今回は、奥多摩の御前山に登る。この季節は、やはりカタクリとの出会いが目当て。すばらしい天気の中で、奥多摩湖でバスを降り、トイレを済ませ、軽い運動をして歩きはじめる。

小河内ダムの上を歩き、対岸からは、いきなり急登が始まる。しかし、新緑がまぶしいくらいに輝き、そんな中にいられることがとてもうれしくなる。早いグループにはどんどん先に行ってもらおう。こちらは、いつものペースでゆっくり登る。



新緑の登山道を登る

木々の間からエメラルドグリーンの奥多摩湖が見える。木が多すぎて写真ではうまく表現できないと思い、ほとんど写真は撮らずに登る。ヤマガラやヒガラ、センダイムシクイ、ヤブサメ、そしてオオルリの声も聞こえる。遠くでツツドリの声も聞こえる。ほぼ夏鳥はそろったようだ。

サス沢山からは、奥多摩湖がよく見える。手前の山の上には、飛龍山も見えている。左奥に

は、大菩薩嶺がよく見える。気温も高く、今日は最高の天気だ。

さらに登っていくと、足下にはギンリョウソウが咲きはじめていた。さらにハルリンドウやタチツボスミレが咲く。そしていよいよカタクリのお出ましだ。しかし、標高の低いところでは、すでに花は終わっていた。今年は気温が高かったのもう花期が終わったのではないかと、少し不安になる。



カタクリ

しかし、案ずる必要はなかった。登るにつれ、旬のカタクリがたくさん見られるようになってきた。圧巻は惣岳山の山頂付近だった。非常に多くの花が咲いている。M君と私は、よい写真を撮ろうと、きれいなカタクリを探し、寝転んだり、姿勢を低くして撮る。上から撮ってもカタクリの顔は見えない。花よりも低い位置から撮らなければ花の表情を写せない。2人で一所懸命に撮影に励む。

惣岳山の山頂から先は、もう登山道以外は立ち入り禁止になっていた。惣岳山の山頂は、広くて昼食タイムにもよいのだが、ITさんが山中で合流する予定だったので、昼食は山頂で摂ることにする。

山頂直下で真っ白な富士山が目に入ってきた。うっすらだが、間違いなく富士山だった。

山頂に着いたが、ITさんはいないようだ。とにかくベンチに座って昼食タイムとする。黄色

い花は、キジムシロだろうかミツバツチグリだろうか、よく分からないが、たくさん咲いている。



カタクリの写真を撮る
M君とAさん(Iさん撮影)

山頂からの下山路もカタクリが多かった。いったい何枚撮ったのだろうか？ 帰ってからの写真の選別が大変だが、下手な鉄砲数打ちゃ当たるで、とにかくたくさん撮る。



御前山山頂にて

鋸山につながる稜線から離れ、栃寄の大滝方面に下る。避難小屋付近には、コガネネコノメ

★岩殿山(5月6日)

参加者 会員(障害者3名、健常者9名)

ゴールデンウィークの最終日、きつい山は無理という方にも参加してもらえるように、手軽に登れる大月の岩殿山を計画した。低気圧が迫ってきているものの、今日までは晴れ予報。当日は、富士山がよく見えるすばらしい天気恵

が咲いていた。ハシリドコロも多い。少し下ると、ヒナスミレも咲いていた。どんどん下っていくと、久しぶりにアズマイチゲの花を見つけた。ここでもM君と一緒に写真を撮る。

栃寄の大滝からの道は、一時閉鎖になったようだが、今は通行できるのでそこを下ることにする。ミソサザイが近くでさえずっている。なんとか写真に収めることができた。

最後は車道に出て、バスの時間を気にしながら急いで歩く。多くの人々が並んでいる境橋のバス停から、予定通りの時間のバスに乗車することができた。今回は、子どもはM君だけだったが、多くの花の写真を撮楽しむことができたことが収穫だった。

記：網干



アズマイチゲ

コースタイム

奥多摩湖(9:15)…サス沢山(10:35-10:45)
…惣岳山(12:15-12:25)…御前山(12:45-13:30)…境橋(15:50)

まれた。

しかし、今日は気温が30℃近くまで上昇する予報。しっかり水分補給して登ることとする。また、今回は、数年ぶりの方もいて、4人の方が久しぶりの参加となった。まずは自己紹介をして出発する。

駅から車道を歩き、線路を渡り、笹子川を渡り、中央高速のトンネルの上を通過して、登山口となる。10分ほど登るとふれあい館のある丸

山公園だ。富士山の展望が素晴らしい。富士山の右横には三ッ峠山も見えている。ふれあい館の上には、岩殿山の大きな岩壁が見える。この岩は、集塊岩だと思っていたが、礫岩だった。小石をコンクリートで固めたような岩だ。山頂直下の岩壁は、かぶと岩と言われるほぼ垂直の大きな岸壁だ。また、山頂の標高はスカイツリーと同じ634m。標高差は約300m。のんびり登ることにする。



富士山とつるし雲

山頂までは、ほとんど階段だ。時折、右手にほぼ垂直の岸壁が見えてくる。



整備された道を登る

階段は登るにつれて急になってくる。久しぶりに参加する方が多かったので、少し心配していたが、ほとんど遅れることもなく、全員が山頂に到着する。

山頂からは、もちろん富士山が正面に見える。ここは、秀麗富岳十二景の一つ。ここは風が弱い、富士山には強風が吹き付けているのだろう。レンズ雲が3つも連なっている。他には、三ッ峠山や滝子山もよく見える。

山頂標識のあるところは直射日光が強い

で、少し下った樹林に覆われた広場で休憩する。ここは、岩殿城があった頃、馬を休ませたところらしい。木陰は涼しく、昼寝をしたくなるくらいだ。



岩殿山山頂にて

昼食後、集合写真を撮り、別のコースがあったのでそこを下ろうとしたが、すぐに行き止まりとなった。もう一つのコースも通行禁止になっている。仕方がないので、登ってきた道を引き返すことにする。



ハヤブサ

急な階段を下り、さらに傾斜の落ちた階段を下っていく。すると、何か賑やかな音がある。野鳥の声かと思うが、今までに聞いたことがない。上空を見たらハヤブサの仲間のような猛禽類が飛んでいる。もしかして、この声は、親から餌をもらいたくて、近づいた親を呼んでいる雛の声ではないかと思われた。それなら、もしかしたらハヤブサの写真を撮れるかも知れないと思い、みなさんには先に下ってもらい、少し登り返して、上空が見えるところで、ザックを下にして、寝転んでハヤブサの仲間を待つ。しかし、なかなか雛の声がしない。15分ほど

寝転んでいたが、みんなが待っているの、諦めて下ることにする。

みんなは、丸山公園で待っていてくれた。上空を見ると、猛禽類が舞っている。望遠で写真を撮って、帰ってみてみたら、やはりハヤブサだった。大きな岸壁の真ん中に巣を作っているのだから、ヘビや動物に襲われることもないだろう。

階段を下り、車道を通って大月駅に向かう。電線にイソヒヨドリが止ってさえずっていた。

★御座山(5月20日)

参加者 会員(障害者3名、健常者5名)

週間天気予報は、週末があまり良くなかったが、登山の日が近づくにつれてよい予報に変わってきた。そして、当日は素晴らしい天気恵まれた。新幹線の車窓からは富士山がよく見え、小海線の佐久平駅のホームからは北アルプスの槍穂高連峰がよく見えた。ハヶ岳はまだ雲に隠れていた。

小海駅で電車を降り、ジャンボタクシーに乗り込む。今日は100kmウルトラマラソンだったようで、道路をランナーが走っていた。今朝5時に野辺山をスタートしたらしい。みんなとてもがんばっている。



私たちは、途中からマラソンコースから別れ、栗生登山口へと向かっていく。バスの終点から

こんな山の中にもイソヒヨドリがいたのには少し驚いた。

初夏を思わせる少し暑い日でしたが、いろいろ収穫のあった軽い登山を楽しむことができました。
記：網干

コースタイム

大月駅(10:10)…丸山公園(10:40-10:55)…
岩殿山(11:20-12:30)…大月駅(13:55)

さらに林道を走って、登山口まで行ってもら。これで30分程度時間を稼げた。

登山口では、梢でオオルリがきれいな声でさえずっている。登山口からは沢に沿って登っていく。時々沢から離れるが、ほぼ沢通し。しかし、沢は時々水の流れが見えないところもある。



しばらく登ると、不動の滝に到着する。水量は少ないが、日差しを受けて水流や岩がまぶしい。滝のそばにはハシリドコロがまだ咲いていた。ジュウイチの声やヒガラ、キクイタダキ、ミソサザイ等の歌声を聞き、時折アカゲラかアオゲラの声もする。

滝から少し登ると、少し展望のあるところに出る。天狗山とその向こうに奥秩父方面の山が見えていた。

登っていくとミツバツツジがきれいに咲いているところに出た。この付近は、急坂をジグザグに登っている。倒木をくぐり抜けるところ

もある。ここをぐんぐん登っていくと、岩に人が怒っているような顔をペンキで描いた所に出る。誰かの落書きだろうか。



さらに登り、山頂まで500mの標識を過ぎ、岩を回り込むように進むと、鎖場に到着した。木の根っかが多く、恰好のホールドに恵まれている。鎖は3本ほど続き、その上は展望のよい場所となる。そこからもう少し鎖のある岩場を登っていく。

鎖場を過ぎてさらに登ると、山頂手前の小ピークに出る。ここからは一旦下り、痩せている尾根を行くことになる。これから向かう山頂が見えるところもあった。こちら側がすっぱり切れ落ちた岩の山頂だ。迫力がある。



さらに鎖場を下り、最後の山頂への上りにかかる。登り始めるとシャクナゲが現れてきた。少しだけ咲いている花もあった。足下にはイワカガミも咲いている。ハケ岳もよく見えるようになってきた。

そして、山頂の一角となる最後の岩尾根に出

る。ここは、岩壁側に落ちたら一巻の終わりなので、慎重に行動する。視覚障害者の人たちのサポートも、みんながしっかり行ってくれる。



昼食場所にするとことを決め、そこにザックを置いていく。細い岩の尾根を慎重に歩いて山頂に到着した。山頂は、ハケ岳はもちろん、その右手に北アルプスが見える。さらに右には妙高の山々、湯ノ丸山から浅間山方面、そして上越の山も見え、近くには両神山も見える。ハケ岳の左側には、甲斐駒ヶ岳や北岳が見える。さらに奥秩父は、端牆山から金峰山、国師ヶ岳、甲武信ヶ岳まで見えている。好天に恵まれ、すばらしい展望だ。みんなからは、新幹線を使っても来る価値のある山だったとの声が聞こえてくる。計画してよかったと思う。



山頂には、缶ビールを10本近く飲んでいる人がいた。いつもこうだと言うが、安全な登山道ではないので心配だ。

山頂で50分ほど休み、下山にかかる。下山は岩場の下りが多いので、慎重に下る。痩せた尾根を通過し、小ピークを越え、鎖場も無事に



山頂から見た
天狗山・男山(手前)と南アルプス

通過。予約したタクシーの時間には余裕があると思ったが、登山口に着いたのは予約時間の5分前だった。ジャンボタクシーに乗って小海駅

★鬼ヶ岳(5月27日)

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)

高速バスで、河口湖に向かう。バスの車窓から富士山がよく見える。ただ、順光のため陰影がなくのっぺりしていて写真向きの景色ではない。それでも富士山が見えるとうれしい。若者たちは、富士急ハイランドで下車する人が多く、半分くらいの人が下りていった。



西湖と富士山

河口湖で、現地集合の人たちと合流し、予約したタクシーに乗り込む。NHKのテレビ撮影中であることなど、いろいろ教えてもらえる。裏河口湖の畔を通り、西湖の北部を走って、魚眠荘に到着する。タクシーのナンバープレートを見たら、富士山の標高と同じ37776だっ

に向かう。車道では、まだウルトラマラソンのランナーが歩いている。救護班の車も走り、その後はランナーがいなかったのも、最終ランナーだったのだろう。かなり大勢のランナーが歩いていた。

すばらしい展望を楽しみ、帰りも少しリッチに新幹線で帰らせてもらった。 記：網干

コースタイム

栗生コース登山口(10:00)…不動の滝(10:40-10:50)…御座山(12:20-13:10)…栗生コース登山口(14:55)

た。記念にパチリ。

魚眠荘前の西湖の畔で、富士山の写真を撮らせていただいて、自己紹介の後出発する。

しばらく林道を歩き、山道へと入っていく。植林帯の中の薄暗い道が続く。東入川を渡ると尾根を登るようになる。植林帯をジグザグに登っていく。



ヤマツツジ咲く登山道を登る

植林帯を抜け、雑木林になると、ヤマツツジが増えてきた。新緑の柔らかい緑に包まれるようになる。登山道は次第に急になるが、ヤマツツジが楽しませてくれる。さらに登ると、ミツバツツジも現れる。

山頂からの下山路となる鍵掛峠方面の尾根や山腹には、ミツバツツジの群落が見え、その付近をピンクに染めている。あそこを歩けたらよいなと思っていたら、登山道には、次々にミ

ツバツツジが現れるようになる。



鮮やかなピンクの花を付けた木が現れたと思ったら、大きな木に満開の花を付けたミツバツツジも現れた。「これは今日最高のミツバツツジだね」とみんなで納得して見とれる。

時々樹林が切れ、富士山が見えるようになる。しかし、山頂付近を雲に隠している。今日は、湿度が高く、くっきり見えるというわけにはいかない。



シロバナのサラサドウダンのような花も見られるようになり、足下にはアカフタチツボスミレも見られるようになる。さらに登っていくと、見晴らしのよいところに出て、雪頭ヶ岳の標識があった。展望のよいここで昼食タイムとする。

途中で抜いたツアーの人たちも登ってきて、ここで昼食にしようだ。みなさんは、鬼ヶ岳から十二ヶ岳に縦走するらしい。市川市に住む人もいたので、山仲間アルプを紹介させていだいた。

雪頭ヶ岳からは、痩せ尾根となる。何ヶ所か

ロープの張られた所を通過する。これから行く先には、ハシゴも見えた。しかし、ミツバツツジは途切れることなく、花を見せてくれる。すばらしい登山道だ。



ハシゴを慎重に登ると、すぐに鬼ヶ岳山頂に到着する。山頂の一角に角のような岩がある。この岩が「鬼ヶ岳」の由来なのだろうか？ 山頂からは、かすかに南アルプスが見えていた。近くの節刀ヶ岳や十二ヶ岳、黒岳、三ツ峠などが見える。少し休憩し、集合写真を撮って鍵掛峠方面に下る。



鍵掛峠方面の尾根も、なかなか険しい。ロープの張られた急斜面を下降する。しかし、ミツバツツジはこちらの尾根も多い。散った花びらも絨毯のように登山道を飾っている。

こちらの尾根も痩せ尾根が多く、ロープが張られた岩場が何回か現れる。振り返ると、手前のピークの向こうに、鬼ヶ岳が見えていた。久しぶりに参加したKさんが何度か足がつったが、それでも、それほど遅れずに歩いてくる。

ヤマツツジが再び現れ始めると、鍵掛峠に到

着した。横に伸びた木の幹が、長椅子のように座る場所を提供してくれている。少し休憩して下山にかかる。



緑とミツバツツジが美しい

峠からも急坂が続く。標高が下がるとヤマツツジが多い。鮮やかな赤を楽しみながら下る。尾根から沢に下るジグザグ道に入る。めずらしいオニクが咲いていた。

林道に下り、魚眠荘を目指して歩いていると、かやぶき屋根の家が見える。その家の横には富士山も見えている。この付近は、西湖いやしの里根場（ねんば）というところで、かやぶき屋根の家が集落を作っている。古民家の軒先で集

合写真を撮り、車道を歩いて魚眠荘前に到着する。朝乗ったタクシーの運転手さんが待っていてくれた。

来るときは高速バスだったが、帰りは富士急行で帰る。河口湖に着くと、富士山ビュー特急が待っていた。特急料金は400円。乗車券に比べると安い。ギリギリ間に合って、特急に乗って帰路についた。

記：網干



西湖いやしの里根場にて

コースタイム

魚眠荘前 (9:50) … 不動の滝 (10:40-10:50)
… 御座山 (12:20-13:10) … 栗生コース登山口 (14:55)

講習会報告

★岩登り技術講習会（高取山）（3月25日）

参加者 会員(健常者 5 名)

会員外(健常者 1 名)

今回は、会員外で参加したMさんを含めて、6名での実施となった。今回の岩登り講習会が、NPO法人としての最後の事業になる予定だ。決して事故を起こさないようにしたい。

東京は桜が満開だったが、神奈川県に入るとまだ満開ではないようだ。鷹取山のある湘南も、まだ5分咲き程度だろうか？それでも、満開になっている木もある。桜並木を楽しみ、いつもの階段を登っていく。今日は快晴の空が広がる。



戸田ハングに挑戦するK君

まず最初に登場する岩場で、予行演習をする。試し運転にはちょっと厳しい岩場だが、ボルダリングで岩の感触を確かめる。今日は、Kさん親子とMさんが、鷹取山の岩場初体験となる。

まずは、子不知エリアの初心者向けカンテを

登る。ここは全員難なくクリア。

続いてすぐ隣にトップロープをセットし直し、戸田ハングを途中からトライすることとする。初めて岩登りをする M さんにはちょっと厳しすぎて申し訳なかった。Kさん親子は、初めてのトライでクリアする。今回が2回目となるHさんもうとうとうここをクリア。やはり何度もトライして、岩登りのコツを覚えると、技術が身について登れる範囲も広がってくる。



昼食後は、ビギナーフェースに移動する。今日は、暖かく感じるくらいの絶好の日和だが、クライミングをする人は意外に少ない。そろそろ春山に向けて岩トレする人が増える時期だと思うのだが？

ビギナーフェースでは、まずグレード5.7のNO.3のルートから登ることにする。トップロープをセットし、まずはHさんから。続いてY

Kさん、Mさん、KK君、Nさん、そしてAさんの順に登る。少し苦勞したが、全員完登する。

最後は、ビギナーフェースの左ルート。ここはグレード5.8。上まで到達するのはかなり厳しい。



ロープに半分ぶら下がりながらKK君とAさんが何とか登り切る。Aさんは、最後、捨て縄にカラビナをかけてAOで登った。鷹取山は2年ぶり。やはり2年間でかなり力が落ちていることを実感する。

みんな、握力がなくなるまでがんばってチャレンジした。最後の岩登り講習会となりましたが、大きな事故なく終えることができてホッとしています。みなさまのご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

記：網干

★岩登り技術講習会（日和田山）（6月17日）

参加者 会員(障害者2名、健常者2名)

日曜日は梅雨の晴れ間となって、気温も高くなる予報だった。しかし、雨は降らないものの、ずっと曇り空で、気温も低かった。岩場までの登山道は、昨日の雨のせいか、ぐちゃぐちゃになっていた。

こんな日は、岩トレをする人も少ないだろうと思っていたが、岩場に着いたらびっくり。登山道の横にはザックがずっと並んでいる。岩場

には大勢の人たちがいる。今日は、女岩南面だけしか登れないだろうと感じた。

まず、ザイルの結び方を覚えてもらう。8の字結び、プーリン結び、マスト結び、半マストなどを練習してもらう。

続いて、今まで登っていた10人近いグループが終わりそうだったので、使わせてもらってもよいか確認して、女岩南面のⅢ級ルートを登る。

久しぶりに岩トレを行うF夫妻は、室内クライミングで練習しているせいか、すいすい登っ

ていく。今回が初体験のIさんも、がんばって登っていく。何度も登ることが大切なので、一回りしたところで、再度Iさんに登ってもらう。



女岩南面を登るYFさん

昼食後は、右側のフェースなどを登る。Iさんは軽登山靴で登るハンデがあったが、がんばって登っていた。まだ完全に乾ききっていなかった岩場だったが、みんな3本から4本登って、トレーニングを終えた。 記：網干



女岩南面を登り切ったIさん

《参加者の感想》

今回、アルプに入会して初めて岩トレに参加しました。クライミングには、興味が無いのですが、以前に四阿屋山の鎖場で苦戦したので、自身のスキルアップをしたいという思いから参加することにしました。

もともと体格の割に腕も細く、腕力や握力もなく懸垂もできないので、不安いっぱいでの参加でした。

網干さんからロープワークを教わり、さっそくチャレンジ！・・・ですが、自分のイメージと違って、思うように動けない。小さな足掛かりに体重を乗せようとしても、足が滑りそうで怖さが勝ります。頭ではわかっているのにどうしても体が動かない。

いろいろとアドバイスを貰いながら、どうか1本目を登りましたが、達成感よりも緊張しっぱなしで息も荒く、周りを見る余裕もありませんでした。

昼食後にもう少し難しいところにもチャレンジしましたが、もう岩にしがみつくのが精一杯で、腕の力も無くなり、結局クリアできず断念。

正直、楽しいと思う余裕はなく、今は腕だけでなく、全身筋肉痛です。でも、今回の経験はきっと山で生かされると思います。網干さんには一から教えていただき感謝でいっぱいです。次回はもう少し頑張れるようにしたいと思います。ありがとうございました。

記：K.Iさん



日和田山の岩場で

ハイキング 報告

★第53回ふれあいハイキング（座間谷戸公園）（3月4日）

参加者 会員(障害者2名、健常者9名)

今日は、最高気温が20℃くらいになるという予報。それでも、朝方は寒い。最寄り駅で電車を待つ時間は、少し寒く感じた。しかし、座間駅に着いて歩きはじめるとすぐに暑くなる。薄手のダウンを脱ぐ。

座間駅から小田急線沿いに歩いていくと、座間谷戸公園の西口に着く。どこから移設したのだろう、長屋門作りの立派な入口だ。内部は、広場となり、その先に水鳥の池がある。今日は、普通に歩けば1時間で十分歩けるコース。早く終わらないように自然観察しながらのんびり歩くことにする。



まずは、里山体験館で、いろいろや竈などを見る。IさんとSさんは地図を入手していた。まず、湿性生態園の付近でアオジ発見。ここで望遠レンズを持ってきていなかったことに気づく。「家に戻ってもう一度出直すか？」と本気で思ったくらい、私には一大事。しかし無理なので、気を取り直して、55mmのレンズで撮ることにする。アオジは、すぐ近くまで来てくれた。雄と雌のアオジがいた。頭付近の黒の色合いが濃い方が雄、淡い方が雌。

水鳥の池には、アオサギ、コサギ、マガモたちがいた。カワセミが現れないかなと期待したが、残念ながら現れなかった。Mさんは、ここで待っているという。旦那さんだけみんなと一緒に公園を回ることにする。



まずは丹沢山地の展望が良いという伝説の丘に上がる。本日の唯一のピークか？道路からは、丹沢山地がよく見えた。大山はすぐに分かる。塔ノ岳は見えていたが、最高峰の蛭ヶ岳は雲の中だった。展望図を見ると富士山は塔ノ岳の影になって見えならしい。「なんだ富士山は丹沢より低いんだ」と言いたくなる。

今日は時間がたっぷりあるので、ここからわきみずの谷に下り、さらに上がって森の学校方面に行くことにする。すぐにすみやき小屋があったので、中の構造を学ぶ。



わきみずの谷では、すでにニリンソウが咲いていた。湿地に咲いている黄色の花はリュウキンかかなと思ったが、初めて見る植物だった。

わきみずの谷から登り返し、時計回りにぐると歩く。クヌギやコナラの観察林を過ぎ、テニスコートで楽しむ子どもたちの声を聞き、森の学校に着く。1分もあれば回れてしまう狭い範囲だった。

そろそろおなかも空いてきた。スギ・ヒノキの観察林を過ぎ、野鳥観察小屋に下りていく。

「観察小屋なのにどこに野鳥がいるのかな？」という親子に、「ここよりも下の観察小屋の方が水鳥を見られますよ」と教えてあげる。下の小屋では、「いたいた」とよろこぶ声が聞こえた。

ただ、下の観察小屋からもあまり良く鳥は見えない。やはり水鳥の池に下りてみた方がよく見える。ベンチに座って待っていたMさんと合流し、水鳥の池の畔のベンチで昼食タイムとする。待っていたけど、カワセミは残念ながら現れなかった。

今日のハイキングはここで終了。小田急線沿いの道に戻って座間駅に着く。久しぶりに参加したMさんご夫妻とSさん親子も楽しんでいたようだ。短い距離だったけど、それなりに高低差もあり、ぽかぽか陽気の春の日差しを受け

て、軽い運動を楽しめた一日でした。

記：網干



アオジ

コースタイム

座間駅(9:15)…公園西口(9:30)…里山体験館(9:35-9:50)…伝説の丘(10:10)…水鳥の池(11:30-12:40)…座間駅(12:55)

★第11回ふれあいキャンプ（上高地）（6月2日～3日）

参加者 会員(障害者1名、健常者4名)

☆6月2日

上高地まで直接入る高速バスの予約が取れなかったため、電車とバスを乗り継いでいく、いつもの方法に切り替えて上高地に入る。好天ではあるが、穂高連峰には雲がかかっている。それでも、大正池はエメラルドグリーンで美しい。暑さとも無縁だ。



マガモの親子

まずは大正池の畔で昼食タイムとする。穂高連峰や焼岳がよく見える。ここから田代池に向

けて遊歩道を歩く。梓川の支流では、マガモの母親とヒナ10匹ほどが泳いでいる。ヒナの動きが愛らしい。

エゾムラサキやラショウモンカズラがたくさん咲いている。小さなニョイスミレも咲いている。田代池への分岐にある湿原からは、穂高連峰がよく見える。湿原にはレンゲツツジが咲き始めている。足下にはツマトリソウが咲いている。



大正池にて

田代池は、昔と大分様子が変わったようだが、趣があって美しい。池にはヤマメの稚魚が泳いでいた。

田代橋の左岸側にあるトイレで用を済ませ、さらに梓川沿いの遊歩道を歩く。梓川が右に折れ曲がると、荒々しい霞沢岳方面がよく見えるようになる。さらに歩き、バスターミナルによる。明日の帰りのバスの整理券を確保する。

河童橋で集合写真を撮り、小梨平に行く。今回はB型ケビンを予約している。風呂に入ってから、夜の部に移る。Sさんが中心になってメニューを考え、食材を準備してきていただいた。焼き肉や多くの野菜などに舌鼓を打ち、明日の早起きに備えて、早めに床につく。



大正池と焼岳

☆6月3日

夜半、ホトトギスの声がケビンの中でもよく聞こえた。4時に、Fさんの目覚まし時計の音がしたが、予定の4時30分までもう少し休ませていただく。今朝は、雑炊だ。昨晚、少し飲み過ぎて傷ついた胃腸に優しいことがありがたい。女性陣の配慮に感謝です。



朝の河童橋にて

キャンプ場の管理室は、6時前から開いている。山に登る人たちのことを考えて、早くから開けてくれているのだろう。ここでも、思いや

りの気持ちに感謝だ。

気持ちよい小梨平を出発して梓川沿いに出る。早朝の日を受けた穂高連峰や焼岳が美しい。梓川の流れの音も心地よい。快晴の穂高連峰を背に、河童橋で再び集合写真を撮る。焼岳の上には月も出ている。



遊歩道にて

今日は、徳沢までのハイキング。梓川右岸沿いの遊歩道を歩く。カワガラスが梓川に長い時間潜って川底の虫などを食べていたようだ。左岸には荒々しい六百山が佇んでいる。

湿地帯で写真を撮っていた人に、全員での集合写真を撮っていただく。湿地帯を過ぎて樹林帯を歩いていく。周囲の林からは、キビタキの音が何度も聞こえてくる。歩いていると、すぐ近くで声がする。少し探してみたら、キビタキが見つかった。かなり近い場所だったので、みんなが肉眼で見つけられたようだ。



キビタキ

次に現れたのはウグイス。キビタキのようなきれいな姿をしていないが、声は美しい。さらにコマドリまで姿を見せてくれた。

日本三鳴鳥とは、ウグイス、オオルリ、コマ

ドリのことを言う。あとオオルリが姿を見せてくれたら、三鳴鳥が勢揃いなのだが。オオルリの声はよく聞こえている。



湿原が現れると、こんもりとした枯れ草の上に草が茂っている面白い現象が見られた。谷地坊主と呼ばれるらしい。そこから少し行くと明神池への分岐だった。今回は、拝観料を払って明神池を見ることとする。

神聖な池の奥の方にオシドリが見えた。しかし、あまりにも遠すぎる。池には、岩魚が泳いでいた。



明神池から出て、明神橋を渡る。コナシは、満開の花を付けている。秋には、サクランボのようなきれいな実がぶら下がることだろう。何十回も来ている上高地だが、この季節に来ることが少ないので、コナシの花を見ることが少なかった。

徳本峠への分岐を過ぎ、梓川の左岸沿いに林道を歩く。林道横の斜面でアズマシャクナゲが咲いていた。コイワカガミやコミヤバカタバミも咲いている。普段歩いている季節と違うので、

新しい自然との出会いも多い。

サンカヨウやシロバナエンレイソウ、それにオドリコソウも咲いていた。林道の横では、キジバトが翼を広げて虫干しをしている。ニリンソウが増えてきて、ベニバナイチヤクソウも咲いている。



程なく徳沢に到着する。木々の上には、小説「氷壁」の舞台になった前穂東壁が見える。足下にはニリンソウの群生地がある。ここで昼食タイムとする。

のんびり休憩して、引き返す。今度は蝶の写真を撮ることができた。面白いもようの蝶はサカハチチョウだった。スジグロシロチョウも舞っていた。



近くの梢でオオルリの声が聞こえる。100万円以上のレンズを付けたカメラを持っている男性とオオルリを見つける。歩いていた人に教えるが、手前の木の枝の隙間の向こうにある木の枝に止っているので、見つけることができなかった。しかし、これで日本三鳴鳥の姿を写真に収めることができた。再び、キビタキやコ

マドリも見つけることができた。特にコマドリは、5mくらいの近さでいきなり、ヒンカララとさえすってくれた。



来るときには気づかなかったノビネチドリにも出会えた。ノビネチドリとの出会いは初めて

個人山行報告

★槍ヶ岳(4月28日～30日)

参加者 会員(障害者1名、健常者1名)
会員外(健常者1名)

☆4月28日

今回は、弱視のKさんと数年前まで会員だったTさん、それに私の3人で槍ヶ岳を目指す。

4月下旬とはいえ、25℃を超える日もあるこの頃。温暖化の影響が心配される。新穂高温泉の朝も、それほど冷えていないようだ。足湯につかりながら朝食を食べ、山岳警備隊の方に登山計画書を提出して出発する。

しばらくは林道歩きとなる。穂高平への夏道を使えばよかったが、そのまま林道を歩いてしまい、少し遠回りとなってしまった。しかし、緩い傾斜なので、疲れは返って少なかったかも知れない。

この付近は、ようやく芽吹きの子供を迎えたばかり。それでも、ゴジュウカラやヒガラ、コガラなどがさえすり、オオルリも見られた。野

だ。小梨平で、女性陣は預けていた荷物を受け取る。河童橋周辺より、キャンプ場の食堂が空いているので、ここで食事を取る。

河童橋からは、スッキリと晴れ上がった空の下で、残雪を抱いた穂高連峰がくっきりと見えていた。若い頃、育ててもらった穂高に、感謝しながら上高地を後にした。 記：網干

コースタイム

6/2 大正池(12:30-13:10) … 小梨平(15:30)

6/3 小梨平(6:20) … 徳沢(10:00-10:30) … 小梨平(12:30)

鳥たちの声を楽しみながら、林道を上る。

穂高平は、牧場になっている。穂高平小屋の奥には、涸沢岳、南岳と共に、槍の穂先も見えている。あそこを目指して、今日、明日とがんばって登ることになる。



抜戸岳や錫杖岳を時々見ながら林道を行くと、白出沢の出合に着く。ジャンダルムや天狗岳、間ノ岳などがよく見える。そしてここから登山道となる。

最初は残雪もほとんどなく、夏道どおりだったが、次第に残雪が出てくる。滑ると疲れるので、Kさんにはアイゼンを付けてもらう。

大きなデブリのあるブドウ谷とチビ谷を通過すると、滝谷の出合は近い。滝谷の出合にある滝谷避難小屋は、ちょうど10年前に Yさんと一緒に泊まった所。あの時は、翌日、奥丸山への尾根に上がり、尾根通しに槍ヶ岳を目指した。私たち以外にこの尾根を登るパーティーはなく、二人だけで静かな登山を楽しんだ。懐かしい思い出がある。



涸沢岳・奥穂を背に登る

今回は、ここに泊まらず、槍平まで行く計画だ。滝谷出合からドームや雄滝を見て、さらに残雪の上を進んでいく。振り返ると、次第に、涸沢岳西尾根上にある蒲田富士が見えるようになり、涸沢岳もよく見えるようになる。さらに滝谷のドームや、以前登ったことのある第4尾根もよく見える。今日は素晴らしい天気恵まれた。



右側にある槍平冬季小屋に泊まる

重いザックが肩に食い込むが、そんなことに負けてはいられない。がんばって残雪の斜面を登っていく。沢の近くを通過すると、視界が開けて槍平に到着する。今は、槍平小屋は営業していない。無人の冬季小屋を利用する。水場は、

近くのダケカンバの下を流れている水を利用する。はしごがかけられていて、2mほど下って水を汲む。雪を溶かす必要がないので、とても助かる。冬季小屋は、私たちの他に、3パーティー4人が泊まっていた。



日の出前の飛騨沢に登る

☆4月29日

今日中に槍ヶ岳を登って横尾まで行くという単独行の女性は、1時頃出発していった。我々は3時に起床する。小屋の中で、湯を作り、朝食を摂って出発する。

時刻は4時半。もうヘッドランプはいらないくらいだ。平坦な飛騨沢の残雪を登っていく。次第に傾斜が出てくるが、とても歩きやすい。振り返ると、北穂から西穂までの穂高連峰がよく見えるようになる。日の出を迎えたようで、涸沢岳の北側斜面に日が当たり始めた。今日も快晴の天気で迎えられた。



飛騨沢最上部に登る

緩い残雪の斜面を登っていく。登るにつれて乗鞍岳も見えるようになる。今登っている飛騨沢は、緩やかに右にカーブして、徐々に傾斜を増し、飛騨乗越へとせり上がっていく。登りが

次第にきつくなるコースだ。

千丈分岐点は、夏なら標識があると思うが、今は雪に埋もれて全く見えない。スマホのGPSで、その付近を通過したことを確認する。

後には、抜戸岳と笠ヶ岳が見えるようになる。上部は日が当たっている。さらに登ると、双六岳も見えるようになる。傾斜は次第に急になり、飛騨乗越はすぐそこのように見えるが、なかなか着かない。トレースがまっすぐに伸びている。



ようやく飛騨乗越から太陽が顔を出した。非常にまぶしくなる。ところどころ、夏道が見られるようになる。稜線はもう近い。

飛騨乗越に到着すると、目前に大きな槍ヶ岳が姿を現す。常念岳や大天井岳方面も見えるようになる。笠ヶ岳の向こうには白山も見えるようになる。槍沢には、大勢登ってくる行列も見える。大喰岳からは、スノーボーダーやスキーヤーが滑っている。さすがに格好良い。



槍ヶ岳山荘に入り、受付を済ませて、昼食を摂り、少しゆっくりしてから山頂へ向かう。互いにロープでつなが合って、まずはスタカット

で登る。私、Kさん、Tさんの順番。TさんにKさんの足下の指示をしてもらう。

5年前にも個人山行で槍ヶ岳を目指したが、その時は、長い順番待ちと天候の崩れもあって、杭の出るところで引き返した。今年は、その時より、やや雪は少ないようだ。慎重に登って、杭の所まで来る。そこから山頂は目と鼻の先。今回は、それほど長い順番待ちはないので、さらに登っていく。



杭の壁を登り、残雪に沿って登っていくと、山頂直下に2つ掛かるハシゴに到着する。ここを登り切れば山頂だ。

5年前、悔しい思いで引き返したKさんも、今回は、槍ヶ岳初登頂。ガイドさんと厳しい山行をしていたTさんも、槍ヶ岳は初めてだったらしい。二人とも、アイゼンを付けての槍ヶ岳登頂。本当にがんばりました。狭い山頂は慎重な行動が必要。祠の所に行き、他の方に写真を撮っていただく。



登り以上に下りは危険で、時間が掛かることを予想していたため、周囲の風景写真をさっと

撮り、すぐに下りに掛かる。ハシゴは難なく通過。少し急な残雪の所は、そこを避けて登りルートを下った人たちもいるが、こちらはロープを使っているので、残雪の所を下る。問題なく、岩場の鎖に到着。ここからも、スタカットで鎖を利用しながら下っていく。



山頂から見た穂高連峰

山頂の往復に4時間20分もかかったが、無事に登頂を果たすことができた。槍ヶ岳が早く終わったら、大喰岳も往復しようと思っていたが、15時半からでは遅いのでやめておく。山荘に入り、自炊室で登頂祝いとする。食後、談話室に行ってみたが、談話している人は誰もいなくて、本を読んだりテレビを見たり、寝ている人などだけで、談話できる雰囲気ではないので、自炊室に戻る。自炊室にいた人たちと一緒に歌を歌い、楽しいひとときを過ごす。



御来光とシルエットの槍ヶ岳

☆4月30日

3時半に起床して朝食を摂る。トイレなどを済まして外に出ると、ちょうど御来光が上がってきたところ。浅間山の左側から登ってきた。槍ヶ岳とのコラボも写真に収める。昨日は見え

なかった富士山が、今日はよく見える。南アルプスやハケ岳もよく見えている。

すばらしい展望を脳裏に焼き付け、槍沢の下りにかかる。下りはじめは最も急なため、腿の負担が大きい。ザックの重さは、まだ20kg近くあるだろう。ザックの重みも腿に負担をかける。



抜戸岳、笠ヶ岳と白山

それでも、下りは重力に逆らうわけではないので、順調に下っていく。シリセードの後があるので、滑ってみたが、まだ雪が堅く締まっているため、スピードが出すぎる。堅く氷った雪の塊で、尾髄骨を打ってしまい、座ると強い痛みを感じるようになってしまった。



三俣蓮華岳方面

それでも歩くことには問題なく、ぐんぐん下っていく。登ってくる人たちは、日が当たるようになり、暑くてたまらないようだ。半袖の人もある。

日陰に入ると、そこは大曲。槍沢の最後の展望をしっかりと見て、ババ平へと下っていく。ババ平からさらに下り、後に槍ヶ岳が見えるようになると槍沢ロッジに到着する。今日は早く

上高地に着いたら小梨平の風呂に入って帰りたいとの思いがあり、みんながんばって下っている。ロッジでの休憩もほどほどに先を急ぐ。



ロッジから先も滑ると疲れるので、Kさんにはアイゼンを付けてもらったが、岩の箇所が多くなってきたので、一ノ俣からはアイゼンを外してもらう。外した方が歩きやすい箇所が多くなったことで、歩くタイムも速くなった。

雪渓も少なくなり、エメラルドグリーンの色合いで流れる槍沢は、雪解け水を集めて、ゴーゴーと流れている。前穂高岳が見えるようになると、横尾に到着する。あとは、林道歩き。ただ歩くだけだが、この帰りの林道は、いつもザックの重みで、肩が猛烈に痛くなる。それでも、

★編笠山(6月9日)

参加者 会員(健常者6名)

今回は、日曜日が荒れるという予報になったため、大人と子どものふれあい登山で行く予定にしていた赤岳を中止とした。しかし、土曜日は好天に恵まれる可能性が高いため、日帰りで行かれる山を検討してみた。すでに回数券を手している方もいるので、中央線沿線の山を検討したとき、編笠山が思い浮かんだ。小淵沢から観音平までタクシーで行けば、日帰りは可能だ。翌日は日曜日なので、帰りが遅くなくても大丈夫という思いもあり、編笠山に変更して個人山行を行うこととした。

我慢して、急いで歩く。いつもならまだ咲いていないニリンソウも、せせらぎの横で、かなり多く咲いていた。

予定時間より1時間以上前に小梨平に着いたので、入浴して帰ることにする。入浴後、バス停に行ったが、予定のバスは満席とのこと。仕方なく一バス遅らせる。そのために、スーパーあずさは2つ後になってしまった。

帰りは遅くなってしまったが、登頂を終え、全員無事に帰ってこられた満足感を胸に帰路についた。

記：網干

コースタイム

4/28 新穂高温泉(7:05)…穂高平(8:10-8:35)…白出沢(9:25-9:35)…滝谷出合(12:15-12:35)…槍平(15:00)

4/29 槍平(4:35)…飛騨乗越(9:10)…槍ヶ岳山荘(9:50-11:10)…槍ヶ岳(12:50-13:05)…槍ヶ岳山荘(15:30)

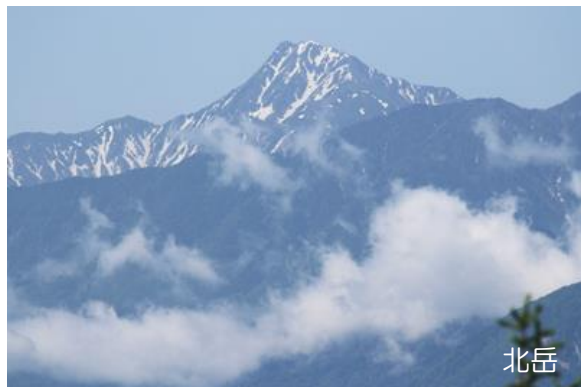
4/30 槍ヶ岳山荘(5:45)…ババ平(7:50-8:00)…槍沢ロッジ(8:25-8:40)…一ノ俣(9:30-9:40)…横尾(10:35-11:00)…小梨平(13:15)

中央線の車窓から南アルプス方面に雲がかかっているものの甲斐駒ヶ岳がよく見えている。これは思った通り期待できそうだと感じた。



小淵沢駅からジャンボタクシーで観音平ま

で上がる予定だったが、富士見平からの方が少し時間が短いので、コースを変更して富士見平で下車する。ここはすばらしい展望だった。南アルプス北部が一望でき、富士山もうっすらだが見えている。カラマツの梢付近にはモズが止っている。足下では、アヤメが咲き、ギンイチモンジセセリやサトキマダラヒカゲが舞っている。今日は暑くなりそうだ。



北岳

今回は、Iさんに先頭を依頼して、登山口から歩きはじめる。少し登ると、ギンランがたくさん咲いていた。足下にはシロバナノヘビイチゴも咲いている。レンゲツツジも見られるようになった。サラサドウダンも咲いている。

最初の展望台に着くと、樹林の上から甲斐駒ヶ岳や仙丈岳、北岳が見える。展望台と言っても人工物があるわけではない。自然の作ってくれた展望台だ。



ギンラン

さらに登り、シダの群生地を過ぎると、雲海展望台までもう少し。雲海展望台は、富士山方面の樹林が切れていたが、富士山はすでに見えなくなっていた。周囲にはレンゲツツジが咲き、

ミツバツツジも1本だけ花を付けていた。



登山道を登る

ミヤマハンショウヅルやキバナノコマノツメの花も見られるようになった。登山道は石のゴツゴツした道となる。カラマツが中心だった林は、原生林の針葉樹に変わってきた。原生林に囲まれた押手川に到着する。少し早いがここで昼食タイムとする。押手川は、昔、登山者が水を求めて苔を手で押したところ、こんこんと冷水が湧き出たことから名付けられたらしい。山中の尾根に、静かに流れる小川があるのは、なんとも言えず不思議な光景だった。



ミヤマハンショウヅル

うっそうとした原生林の林をさらに登っていく。ミツバオウレンやコイワカガミが林床を飾っている。木々の背丈が低くなり、標高が上がったことを確かめる。樹林が切れたところから、甲斐駒や仙丈岳がよく見える。まだ雲に隠されていないようだ。

小さな桜はミネザクラだろうか。鉄のハシゴを登ると山頂は近い。登山道の脇にはゴーロ帯も見られた。

樹林が切れて展望がよくなる。金峰山も見え

るようになる。いよいよ山頂に到着だ。上空には真っ青な空が広がる。



山頂直下のゴースト帯を登る(いさん撮影)

山頂に着くと、これまで見えなかったハヶ岳の山々が間近に見えるようになる。すぐ近くの権現岳とその後に赤岳が見える。その左手には中岳、阿弥陀岳と続き、横岳や天狗岳、夢科山も見える。北の方には諏訪湖も見えている。南アルプスは北岳が雲に隠れ、甲斐駒と仙丈岳が見えている。



編笠山山頂にて

去りがたい気持ちのよい山頂だが、今日は日帰りのため、下山にかかる。下りは青年小屋経由の予定だ。少し下ると青年小屋が見えるようになる。足下には、これまでになかった白いスミレが咲いている。小さくて目立たないが、ウスバスミレのようだった。

青年小屋の手前は、大きな石が積み重なったゴースト帯だ。私はこういうところが大好きだが、視覚障害者の人たちにとっては大の苦手な場所。健常者であっても踏み外したら大けがをする可能性があるため、慎重に下る。



山頂から見た権現岳・赤岳・阿弥陀岳

青年小屋に着くと、入口に赤提灯がぶら下がっている。明日は休みだ。雨もそれほど降らないような感じがするので、男性陣は誘惑に負けそうになる。しかし、そこをKさんが「帰ります」と制止してくれた。赤提灯に後ろ髪を引かれる思いも感じながら、編笠山の巻き道を下る。



権現岳と青年小屋

この付近にヒカリゴケがあるはずだが、どこにも見られない。小屋の方に聞けばよかったと思ったが、後の祭りだった。しかし、この巻き道は、うっそうとした原生林で、苔むした林床



青年小屋にて

の所も多い。また、湧き水も何ヶ所か出ているところがあり、豊かな自然を感じた。コイワカ

ガミもたくさん咲いていた。

ようやく押手川に到着し、ここからは登ってきた道を下ることになる。雲海展望台からは、観音平に下るコースに行く。タクシーに観音平に付きそうな時間を連絡する。次第に登山道は平坦になり、観音平に到着した。観音平にもヒカリゴケがあるので見に行く。しかし、ヒカリゴケの数が少なく、ちょっとがっかりだった。迎えに来てくれたジャンボタクシーに乗り

込み、小淵沢駅に向かう。ほぼ予定通りの時間に下山することができた。好天に恵まれて、ハケ岳の南端の山を楽しむことができました。

記：網干

コースタイム

観音平(9:35)…雲海展望台(10:30-10:45)
…押手川(11:30-11:55)…編笠山(13:45-14:05)…青年小屋(14:45-14:55)…押手川(16:15-16:20)…観音平(17:35)

その他活動報告

○設立総会開催

NPO法人を解散し、任意団体として再スタートするための設立総会を3月31日(土)に八千代市緑が丘公民館で開催しました。議題である「山仲間アルプ設立の件」「山仲間アルプ

会則の件」「当初資産の件」「平成30年度事業計画及び収支予算の件」「役員の件」について審議し、すべて異議なく承認されました。出席者は46名(書面委任27名を含む)でした。

●15周年記念パーティー開催

3月31日、解散総会と設立総会終了後に、パッソ ノヴィータで15周年記念パーティーを開催しました。当日は、32名の参加があり、会員の他に退会された方4名と立教大学の濁川教授、六つ星山の会創立者の松本克彦氏の参加もありました。これまでに撮影した写真パネ

ルを展示すると共に、思い出の写真をスライドショーで見させていただきました。山仲間アルプらしく、みんなで歌う機会もあり、大変盛り上がりました。取りまとめをしていただいた実行委員のみなさまに深く感謝申し上げます。

◎役員会から

・NPO法人の解散手続きを行っています。千葉地方法務局で清算人の登記を行い、5月18日発行の官報に解散の広告が掲載されました。掲載から2か月後に、清算終了届等の手続き

を法務局や県庁に行います。

・4月20日に八千代台東南公民館で監査を行いました。見神監事を中心に、役員全員が出席して内容に問題がないことを確認しました。

各種連絡事項

▲全国視覚障害者交流登山について

六つ星山の会の主催で実施される第16回視覚障害者全国交流登山大会に、山仲間アルプから17名参加することになりました。コースを希望された方はできるだけ希望コースにな

るように調整しますが、スタッフとして協力していただきたい方には、追ってお願いしますので、その際は、ご協力をよろしくお願いします。

△八千代青年会議所の事業に協力

八千代青年会議所から 8 月 18 日～19 日に中学生 30 人程度を募集して富士登山を行うので、協力してほしいと依頼がありました。しかし、山仲間アルプの現状からすると、若者と中学生で登る団体のサポートをできる人は 2～3 人程度と思われ、当日すでに山仲間アル

プの計画もあることから、当日のサポートをお断りし、事前のアドバイス等の協力はいくらかでもすることとしました。8 月 4 日(土)に説明会を開催するとのことで、そこでアドバイザーとして協力させていただくことにしました。当日は、網干と井上氏が出席し、山仲間アルプの PR もさせていただく予定です。

会 員 情 報

◎新入会員のお知らせ

3 月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略)

正会員

1 名

●退会のお知らせ

残念ですが、3 月以降、下記の方が退会されました。(敬称略)

5 名

編 集 後 記

・会長のつぶやき

この4月から山仲間アルプは、任意団体として再出発することになりました。活動内容は、これまでとほとんど変わりませんが、法務局や千葉県庁への提出書類も必要なくなり、事務作業が軽減されます。また、リーダーも比較的気

持ちを軽くして参加できると思います。今後は、リーダーも多くの方に担っていただきたいと思います。

新しいスタートとなりますが、今後もしようしくお願いいたします。

・次回発行予定は、11 月頃を予定しています。

参加申し込みやお問い合わせは下記まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

山仲間アルプ 網干 勝

TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！

